

rhizomatiks_multiplex

ライゾマティクス_マルチプレックス

Rhizome

Entrance

2021

導入展示空間には、ライゾマティクスを象徴するオリジナルロゴとリゾーム(地下茎)をかたどった本展メインビジュアルが投影され、個展のプロローグとなっています。

技術協力=パナソニック株式会社

Rhizomatiks Chronicle

A-1

2021

2006年に結成され、現在に至るまでクリエイティブな新陳代謝を繰り返すライゾマティクスの歴史を、映像インスタレーションとして呈示します。体験者は、映像空間を歩みながら、ライゾマティクスの15年にわたる活動の拡がりを目にするでしょう。

技術協力=キャノンマーケティングジャパン株式会社

NFTs and CryptoArt-Experiment

A-2

2021

CryptoArtと呼ばれるNFT(代替不可能な暗号通貨)によって永続性、相互運用性、唯一性を保証し価値を担保されたデジタルアート作品が、そこで多様な創り手/受け手によりどう流通しているか、現状を可視化し、課題や今後のヴィジョンを問いかける新作です。

技術協力=キャノンマーケティングジャパン株式会社/株式会社Kyuzan

Special thanks=KIZUNA / BlockchainPROseed

Rhizomatiks × ELEVENPLAY “multiplex”

B

2021

演出振付家MIKIKO率いるダンスカンパニー「ELEVENPLAY」のダンサーの動きをモーションデータ化し、映像プロジェクションや動くロボティクスとともに構成したインスタレーションです。リアルな表現をバーチャル空間へハイブリッドに展開し、見る者の視点を移動転換させつつ、新たな人間性を考える空間を創出します。

技術協力=パナソニック株式会社

R&D(リサーチ&ディベロップメント)

C / D

2021-

ライゾマティクスでは、新しい表現の獲得や、次々に生まれる新しい技術やプラットフォームの諸問題を考察するために、アートプロジェクトによる実践／実装を行っています。ここでは、脳情報デコーディング技術*を用いた脳活動と音／映像の関係性、五感が交錯するクロスモーダル現象**やダンスの生成に着目したプロジェクトなど、現在開発中／進行中のプロジェクトを紹介します。

*…脳活動をコード化(符号化)情報と見なし、それを解説(デコード)して刺激や運動を予測する技術

**…本来別々とされる五感・知覚が、たがいに影響を及ぼしあう現象

技術協力=株式会社DataSign

Rhizomatiks Archive & Behind the scene

E

2006-2021

国内外で意欲的に展開されてきた多様なコラボレーションやクライアントワーク、R&Dや作品表現の数々を展示します。記録映像、ドローンやプロップなどオリジナルデバイスの実物展示、貴重な資料展示や試行錯誤した舞台裏(トライアル&エラー)を紹介します。

particles 2021

F

2021

国内外で多数受賞し評価された《particles》(2011年)が、本展にあわせアップデートされました。有機的な螺旋構造を持つ巨大なレールの上を多数のボールが転がり、空中に浮かぶ光の点滅が幻影的な残像を生み出します。球の位置を正確にトラッキングするレーザー照射が、独創的かつ立体的な視覚表現を実現しました。

Epilogue

G

2021

個展のエピローグとして、本展覧会で使われているシステムやデータなど、普段は目にしない光景をまのあたりに体験できる空間です。展示の最後をしめくり、再び展示空間全体を想起させるインスタレーションとなっています。